士昭 二 年和 實用新案出願公告館 四四七號 第四 六類 四 眼

公告 昭和十二 昭和十二 一年 八 月二十九日,一年第二八九七九號

料具

東京市幾町區丸ノ三丁目六番地仲二 出願人 考案者 蒲 生東京市足立區千住一丁目二番地

名雄

郎

本案ヲ示ス第一 瓶 **岡ハ斜面圖ニシテ頂蓋ノー** 部ヲ截缺ス第二圖ハ縱斷面圖ナリト

面ノ略解

圖面

滴

實用新案/性質、作用及效果/要領 口部ニハ漏斗管図ヲ磨合セ 管宮ヲ突成シ該管先端部ニ細孔④ヲ形成セシム⑤ハ秪體ノ他端 **嵌着セシメタル「コルク」製ノ「パツキング」ニシテ①ハ帽蓋頂壁ノ中央部ニ穿設セル透孔ナリトス但シーパツキング」①ノ中央部** 嘴管含ヲ包被セル護謨製ノ「キャツプ」ナリト 上記透孔①ト 帽蓋ニシテ上記螺條(5)部ト螺合シ其ノ上端部ニハ頂蓋(5)[帽蓋ト同一資材ヲ以テ成形セラル]ヲ螺着セシム(1)ハ帽蓋(8)ノ頂部内側 連通シ得へク該孔ョリモ ニョリ嵌脱自在ニ密着シ得ヘカラシム(の)ハ「セルロイド」又ハ「エ 本案ヲ圖面ニ付き説明 徑大ナル透孔了ヲ穿設セシムルヲ要ス②ハ頂蓋②ノ側壁上端部ヲ貫通セル通氣孔ニシテ(基 ス セン 小徑部 ニ圓筒狀ヲナス硝子製瓶體(1)ノ一端部 ニ設ケタル螺條ニシテ其ノ先端部 ボナイト」ノ = 如キ可塑性物ヲ以テ成形 段肩②ヲ設ケテ短 ニ磨合口部ヲ殘存セシメ 小ナル 該 嘴

本案ハ使用ニ際シ蘗液其他ノ内容液ヲ容入スルニ當リテハ帽蓋図及漏斗管⑫ヲ脱去セ シメタル狀態ニ於テ靡合セ口部⑤ヨリ液ヲ注入シ適量ヲ充タシタル後第二圖ニ示スカ如ク漏斗管⑫ヲ該磨合セ メ更ニ頂蓋回ヲ螺着セ יענ 帽蓋(8)ヲ 螺條(5)部二 - 螺合セ **≥**⁄ ム w Æ ノニ シテ斯カ w ル狀態ニ 一於テ シム **於能** ルト共二嘴管国ニ「キャップ」返ヲ被覆 ク外氣ト遮断 ムルモ妄リニ嘴管孔 シテ密封セラル 口部ニ嵌入シ密合 ルヲ以

ト共ニ滴下ヲ中止セシムルニ當リテハ單ニ通氣孔②ニ指頭ヲ當テ更ニ頂蓋②ヲ螺進セシムルコトニヨリ確實ニ液ノ流下ヲ阻止シ得 リ液ノ流下スコトナシ尙嘴管ヲ上ニシ頂蓋②ノ底面ヲ以テ載置スル場合ニハ「パツキング」①ヲ介シテ瓶内ハ帽蓋ト頂蓋トノ嵌合ニ テ通氣孔②ヨリ外氣ヲ誘導シ帽蓋◎ノノ透孔҈ロヲ介シテ瓶體內部ト相通セシムルコトニヨリ液ヲ自由ニ嘴管孔ヲ經テ滴下セシメ得ル リ氣密ニ保持セラレ æ ノニシテ從テ內容被ノ漏出傾向ヲ一層減殺セシムルニ效果アルモノトス加之內容液ノ滴下ニ際シテハ頂蓋⑤ヲ少シク螺戾セシメ ノトス且瓶體ノ一端部ハ廣キ口部ヲ形成セルニヨリ漏斗管⑦ノ脫去ト共ニ洗滌作用ヲモ容易ナラシメ得ルノ利アリトス 而カモ漏斗管②ノ脚部ハ瓶體内ニ幾分突出シ居ルヲ以テ内容液カ多量ニ存スル場合ト雖モ液壓ヲ低減シ得ル

瓶 漏斗管辺ヲ嵌着セシメ上記螺條(5)部 シテ甚タ好適セルモノナリトス 圖面ニ示ス如ク瓶體(1)ノー ニ螺合シ頂壁ニ透孔①ヲ穿設セル帽蓋(の)ニ 端部 ニ嘴管(3)ヲ突成シ他端部 ニ螺條(5)ヲ設ケ其 ハ側壁ニ通氣孔⑫ヲ有スル頂蓋匂ヲ嵌合セシメ ノ先端部 ニ磨合セ 口部⑤ヲ形成シテ該口

ノ如ク本案ハ内容液ノ保藏並ニ滴下共ニ簡易且極メテ適確ナルモノナレバ眼藥用點眼器又ハ醫療用若クハ化學試驗用等ノ點滴

斯ク

第 圖 11 成ル滴瓶 (ノ構造 8 5 I 圖二第71110 第 Ġ 1